

1 開会 進行：山本生涯学習課副課長

2 あいさつ 大北教育長
池田委員長

3 議事 令和6年度事業の実績及び令和7年度計画案について

- | | |
|------------------|----------|
| (1) 生涯学習課 | 河端課長より説明 |
| 公民館 | 野口館長より説明 |
| (2) 図書館 | 伊藤館長より説明 |
| (3) 文化・スポーツ課、美術館 | 手島課長より説明 |
| (4) 教育センター | 計倉所長より説明 |
| (5) 人権推進課 | 藤田課長より説明 |

【質疑応答】

(池田委員長)

- ・以上、それぞれの所管課から説明を受けた。ここで質問や意見を伺いたい。

(國井委員)

- ・私は交通指導員として子どもたちの見守りをしている。あわせて、人の目の垣根隊の方も活動されているが、会員数よりも実際に活動されている方は少ないと思う。そこで、活動されていない方にも制服などは貸与しているのか。

(計倉所長)

- ・人の目の垣根隊に登録された方が退会するという意思表示がない場合、継続して会員となっている状況であるが、一昨年には各個人に電話で継続意思の確認を行ったところである。また、散歩や農業などをしながら、見守りをしていただくことも効果があると考えている。

(西田委員)

- ・青山の人の目の垣根隊の状況を申し上げると、やはり活動されている人数が減っているため、どのように増やすべきか検討する必要がある。

(國井委員)

- ・人の目の垣根隊の意見交換会のまとめの資料はできているか。

(計倉所長)

- ・出来上がっているものを提供させていただく。

(兼貞委員)

- ・緑が丘町公民館で短歌教室をしている。会員が高齢になっている中で、毎年、名簿や会計書類の提出を求められ、役員になる方が少なくなっている。そのような事務手続きを簡素化できないのか。

(野口館長)

- ・公民館によって多少の違いはあるものの、やはり施設の使用料の減免対象になるかどうかの判断材料として、最低限の資料を提出いただくことはご協力をお願いしたい。ただし、事務手続きの簡素化や工夫は検討していきたい。

(西田委員)

- ・地域と学校の連携・協働体制推進事業において、老人クラブとして、もっと学校とともに活動しているため、その内容についても追記できればしていただきたい。

(6) 部活動の地域展開について 手島文化・スポーツ課長より説明
計倉委員より説明

(石田委員)

- ・令和10年度に学校の部活動は一切なくなるということか。

(計倉委員)

- ・その通りである。

(手島課長)

- ・学校での部活動はなくなるが、地域クラブを立ち上げ、そこに中学生が参加してほしいということである。

(石田委員)

- ・平日に活動している地域クラブはあるのか。今は活動していないと思う。

(手島課長)

- ・これから平日も活動していただける地域クラブを募るということである。

(小舟委員)

- ・私が子どもの頃は、中学校の部活動に2つ所属していた。とても有難かった。
この計画を見た時、三木市はゴルフが有名であるため、ゴルフクラブを立ち上げるということで、これは地域の特性としては良いことだと思う。ただし、それ以外にも、様々な運動部や文化部を網羅する必要があると思う。また、子どもたちが希望するクラブに所属できる環境を整えなければいけないと思う。その際に、子どもたちが学校から活動場所に移動しなければならないということは、とてもハードルが高い。学校も活動場所の一つになれば、子どもたちが活動しやすくなるのではないかと。子どもたちが置き去り

にならないよう、きめ細かい受け入れ体制や計画を整える必要がある。

(手島課長)

- ・中学校の実情として、一つの部活動を維持するのにも、子どもたちの人数が減っており活動が思うようにできない学校もある。また、最近は部活動には参加せず、クラブチームなどに所属している子どもたちもいる。公民館においても、文化活動などをされている方がいらっしゃるので、その方たちのご協力で子どもたちの活動の場所を確保できればと考えている。また、活動場所については、中学校でもできるものと考えている。

(西田委員)

- ・学校で学びながら部活動もすることが望ましいと思う。市全体として意思統一ができるのか不安である。

(岸本副委員長)

- ・令和5年度に、中学校の部活動のあり方検討委員会というものが5回開催された。この流れは、国の文部科学省の方向性であり、義務化されているものであると思う。全国的な方向性であるため、三木市だけがやらないという選択肢はない。多くの弊害やデメリットがある中で、できないこともあろうかと思う。また、たしかに活動場所までの送迎などについては、保護者の方に大きな負担を強いることになる。
- ・三木市では先行的にゴルフクラブを立ち上げようとしているが、生徒へのアンケート結果によれば、文化部への参加にも興味を示している子どもも多い状況であるため、文化部についてもモデルクラブを作ればよいのではないかと思う。非常に難しい事業ではあると思うが、皆さんに理解していただけるような内容にしていきたい。

(八木委員)

- ・初めてすることであるため、メリットとデメリットは必ずあり、比較、検討しなければならない。私の子どもは吹奏楽をしているが、先生が一人であるため、専門外の楽器については放置状態になってしまっていると聞いている。
- ・地域クラブのメリットとして、専門の方に指導していただき、子どもの習熟度に合わせてもらえれば、子どもたちにとっては良いことだと思う。デメリットばかり議論されているが、これから進めていく中で、子どもたちが様々な活動がしやすいような環境を整えていっていただきたい。
- ・地域移行になれば、学校の先生は全く関与しなくなるのか。

(手島課長)

- ・先生としての立場ではなく、地域の人間として指導、関与される方もいることになる。

(八木委員)

- ・先生であれば、生徒としての子どもたちとの関わり方や特性を知っているが、地域の方が指導者となれば、コミュニケーションがうまくとれるのが心配である。

(手島課長)

- ・教育委員会として、地域の指導者の方にも中学生の特性のようなものを把握していただき、適切な指導やコミュニケーションをとってもらえるよう指導していきたい。

(池田委員長)

- ・この部活動の地域展開について、特に指導者の確保など、社会教育委員として理解したうえで、支援できるところはしていければと考えている。

(國井委員)

- ・経済的に困窮している世帯に対して、活動費の一部などを補助するようなことは考えているのか。

(手島課長)

- ・今のところは、そのような補助はないが、今後進めていく中で検討しなければならないと考えている。

4 その他

山本副課長より説明

- ・令和7年度東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会事業予定について
- ・令和7年度兵庫県社会教育委員協議会関連日程予定について

5 閉会

あいさつ

岸本副委員長

～午前 11 時 45 分終了～

記録者 生涯学習課副課長 山本